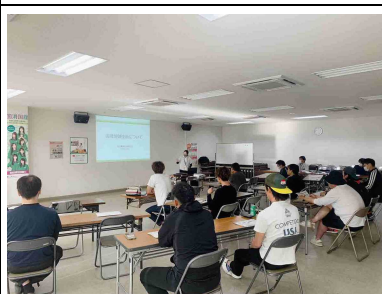


普及活動情勢報告（令和5年6月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

環境制御技術の習得を目指して ～春野胡瓜部会若手育成会勉強会～



勉強会の様子

5月24日、JA高知県春野胡瓜部会若手育成会が勉強会を開催し、13名の生産者が参加しました。JAからは出荷予測に関する取組状況の報告、農業改良普及所からは環境制御に関する基本技術の講習や、農業技術センターの研究内容について情報提供を行いました。

参加者からは、炭酸ガス発生機の使用時期や変温管理の考え方、排水対策について質問が挙がるなど、活発な意見交換の場となりました。

農業改良普及所は今後もJA等と協力し、春野胡瓜部会の栽培技術向上に向け、引き続き支援していきます。

梅雨時期の急な晴れ間に注意しましょう！～トマト現地検討会～



ほ場での意見交換の様子

5月30日、高知市春野町のほ場にてトマト現地検討会を開催し、9名の生産者が参加しました。

現地検討会の前日に梅雨入りが発表されたこともあり、曇天時や梅雨の急な晴れ間の温湿度、かん水管理等を中心に意見交換が行われました。

農業改良普及所からは「尻腐れ果対策」について情報提供しました。

農業改良普及所は今後もJA等と協力し、トマトの品質向上や生産の安定に向けた支援に取り組んでいきます。

農家ができる南海地震への備えとは ～JA高知市園芸部定期総会～



講演の様子

6月1日、JA高知市園芸部定期総会が開催され、園芸部役員の生産者32名を含めた92名が参加しました。

農業改良普及所は、園芸部に対し、南海地震によるハウスの塩害や重油の流出への対策の必要性を以前から提案しており、今回、講演会の演題とすることができました。

講演では、講師の高知大学 岡村名誉教授から過去の震災事例や浸水マップ等が紹介され、生産者は自身のほ場の位置を浸水マップと照らし合わせる等、関心の高さが伺えました。また、流出防止装置付きタンクや防油堤の整備への理解を促すこともできました。

農業改良普及所は今後もJAと連携しながら、災害対策の徹底に向け、支援していきます。

環境データの活用により病害を抑えよう ～長浜支所ピーマン部会勉強会～



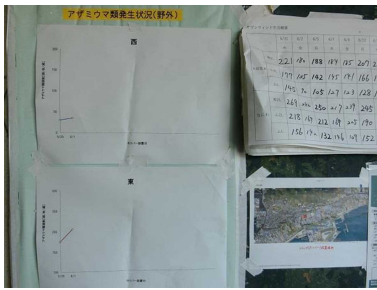
勉強会の様子

6月5日、JA高知市長浜支所園芸部ピーマン部会の勉強会が農業技術センターで開催され、生産者5名が参加しました。本部会では、令和5園芸年度に新たに4戸/6戸が環境測定装置を導入し、温湿度等の環境データの活用に取り組んでいます。

農業改良普及所からは、実証ほでの温湿度の管理事例を紹介しました。生産者からは、「温湿度の変化をデータで確認するようになり、うどんこ病が減った」との声が聞かれました。

農業改良普及所は今後もJAと連携しながら、栽培管理の改善に向け、支援していきます。

グロリオサの適期防除に向けて ～アザミウマ類の発生消長～



出荷場での掲示

JA高知市園芸部三里花卉部会では、グロリオサの秀品率低下の要因となるアザミウマの対策に取り組んでいます。今年度からの取り組みの一つとして、普及所が野外での発生数を調査し、その推移をJA出荷場に掲示しています。

生産者からは、「防除の意識が高まる」、「遅れないように農薬散布したい」との声が聞かれました。

農業改良普及所は、今後も秀品率の向上を目指して実証試験の実施や研修会の開催を支援します。

新たな担い手確保に向けて～地元高校生にIoPの取組について発信～



キュウリでのIoP事例紹介

6月8日、県立春野高校で担い手確保の活動として高知県農業のIoP取組について生徒13名に講座を行いました。

農業改良普及所からは、県のIoPの取組と春野地区キュウリのIoP活用事例を説明しました。従来の経験と勘に頼る栽培管理を環境データや植物データを見える化することで農業経験の短い新規就農者が日々の栽培改善に生かす取組などを紹介しました。

生徒からは、「IoPの難しいそうなイメージが変わった」「身近な所でIoPが使われていることが知れて良かった」など感想が聞かれました。

農業改良普及所は今後も関係機関と連携しながら、担い手確保に向けてPR活動を継続していきます。